

姫路市版 地域の未来予測

2024年2月 姫路市



姫路市版「地域の未来予測」とは

姫路市の人口は2030年には約50万6千人、2050年には約43万6千人となり、2023年の約52万6千人を基準とすると、

2050年には約17.1%、約9万人減少することが予測されます。

急速な人口減少、特に労働力人口や子どもの減少に伴い懸念される、多様な変化・課題に的確に対応していくためには、

行政や議会、住民、地域団体、企業等の地域社会の担い手が、

限られた資源の中でどのような未来を実現したいのか、

議論を重ね、ビジョンを共有することが重要です。

本資料は、総務省「地域の未来予測に関する検討ワーキンググループ報告書」(令和3年3月)を参考に、姫路市における2050年までの各種指標を推計した資料です。

本資料で明らかになった変化や課題の見通しを踏まえ、持続可能なまちづくりを進めてまいります。



推計した分野の考え方について

推計対象は、総務省「地域の未来予測に関する検討ワーキンググループ報告書」に基づき、人口構造の変化を基礎とした長期的推計が可能であり、行政サービスの提供に影響がある6分野を対象としました。

この資料の作成にあたっては、国立社会保障・人口問題研究所による「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）」の推計値を用いています。

※「8 小学校区別人口」については、国立社会保障・人口問題研究所による「日本の地域別将来推計人口」の推計手法に準拠し、姫路市が独自に算出した推計値を用いています。

■ 分野

人口

医療・介護

消防・防災

衛生

施設

交通

分野別指標 一覧

人口	1	将来推計人口
	2	人口ピラミッド
	3	0～5歳児数、3～5歳児数
	4	小学生数、中学生数
	5	若年男女人口（20～39歳）
	6	高齢化率（65歳以上の割合）
	7	75歳以上人口、85歳以上人口
	8	小学校区別人口

医療・介護	9	医療需要・介護需要（播磨姫路医療圏）
消防・防災	10	災害時要援護者数、避難行動要支援者数
	11	救急搬送人員
衛生	12	有収水量（生活用水）
施設	13	公共施設等の年度別改修・更新費用
交通	14	交通発生量
	15	年齢別・各交通手段の交通発生量

1.1

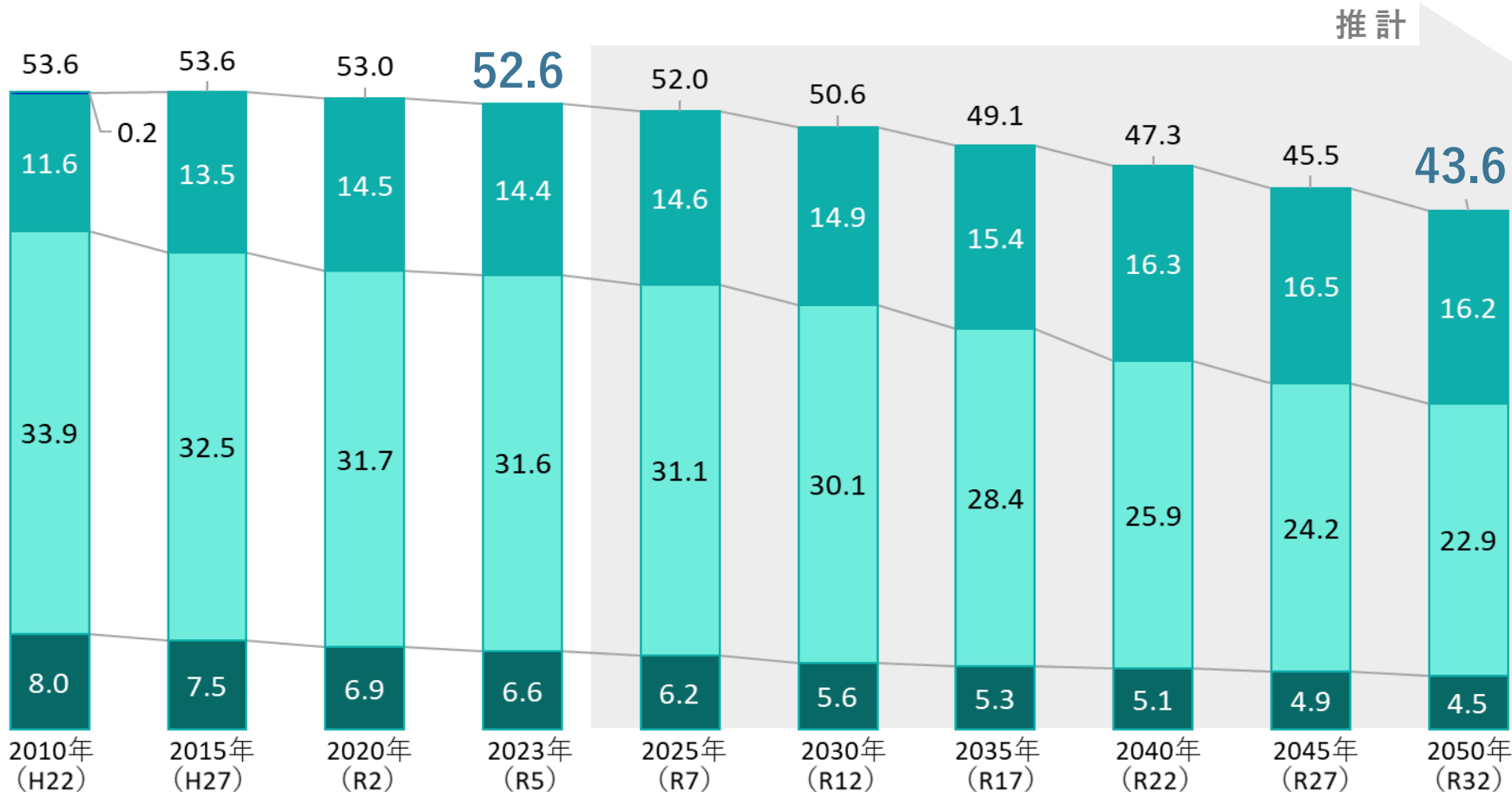
将来推計人口

推計結果の概要

・姫路市の総人口は減少を続け、2030年代前半には50万人を下回り、2050年には2023年と比較して9万人減少する。

想定される変化・課題

・総人口の減少に伴い、さまざまな分野において課題が顕在化すると想定される。
 ・特に、生産年齢人口（15～64歳）の減少により、各種産業に投入される労働量の減少、市場規模の縮小が懸念される。



単位：万人

- 15歳未満
- 15～64歳
- 65歳以上
- 年齢不詳

人口増減 (2023年 → 2050年)	
総数	- 9万人 (- 17%)
65歳以上	+ 1.8万人 (+ 12.5%)
15～64歳	- 8.7万人 (- 27.5%)
15歳未満	- 2.1万人 (- 31.8%)

注
 数値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、総数と内訳の合計は必ずしも一致しない。

出典
 2020年まで「国勢調査」(総務省)。2015年、2020年の年齢別人口は、不詳補完値による。
 2023年は、令和5年9月30日現在における住民基本台帳(外国人を含む)。2025年から「日本の地域別将来推計人口(令和5年推計)」(国立社会保障・人口問題研究所)



1.2

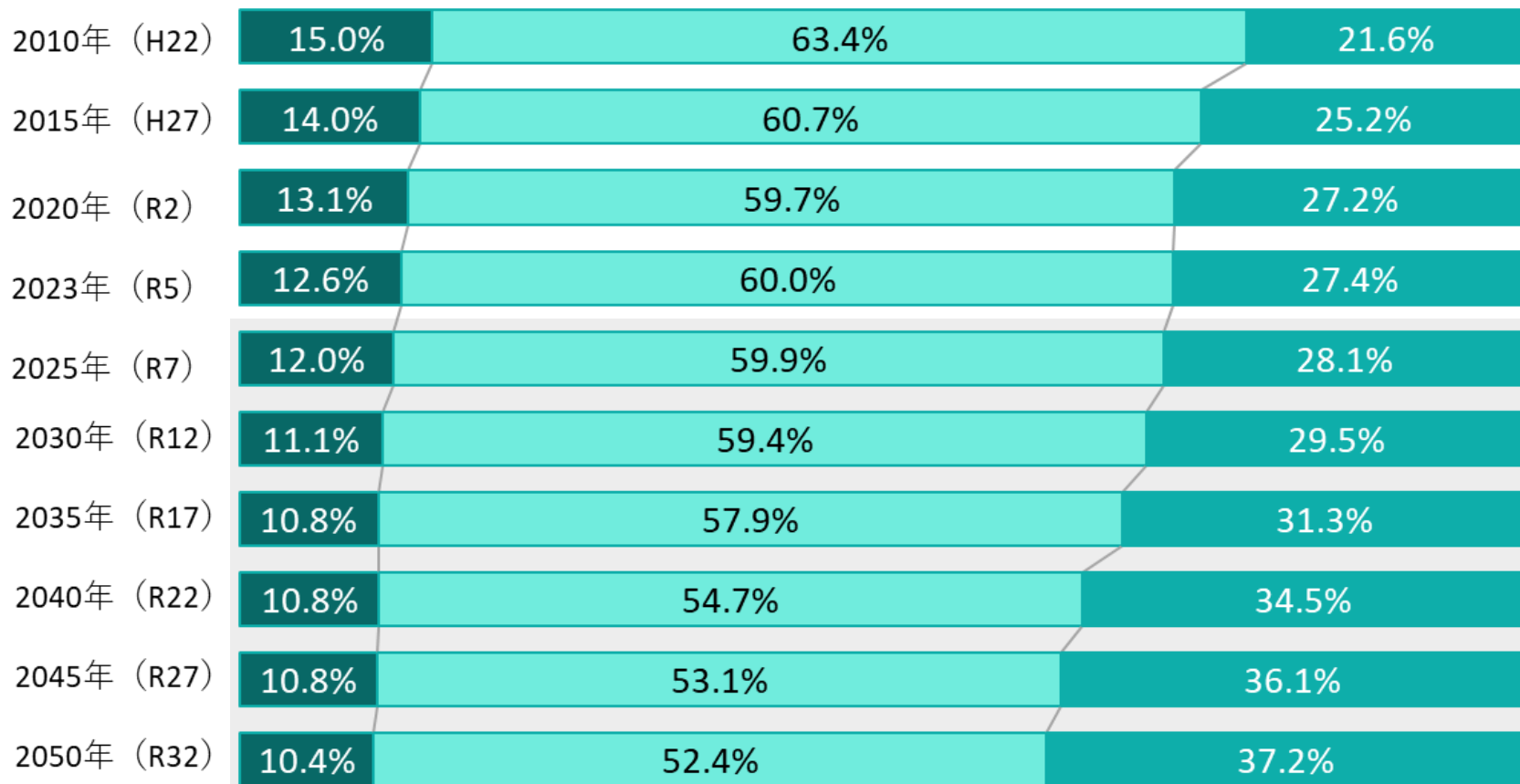
将来推計人口（人口構成）

推計結果の概要

・2020年に約6割であった生産年齢人口の割合は減少し続け、2050年には約5割まで落ち込む一方、2020年では約3割であった65歳以上の高齢者の割合は増加し続け、2050年には約4割に達すると見込まれる。

想定される変化・課題

・少子高齢化の進行により、2050年には約1.4人の現役世代で高齢者1人を支える厳しい状況が想定される。



単位：％

- 15歳未満
- 15~64歳
- 65歳以上

人口構成の変化（2023年 → 2050年）

65歳以上	+ 9.8 pt
15~64歳	- 7.6 pt
15歳未満	- 2.2 pt

推計

注
構成比は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計は必ずしも100%にならない。

出典
2020年まで「国勢調査」（総務省）。2010年の人口は、年齢不詳を除く。2015年、2020年の年齢別人口は、不詳補完値による。2023年は、令和5年9月30日現在における住民基本台帳(外国人を含む)。2025年から「日本の地域別将来推計人口(令和5年推計)」（国立社会保障・人口問題研究所）



2

人口ピラミッド

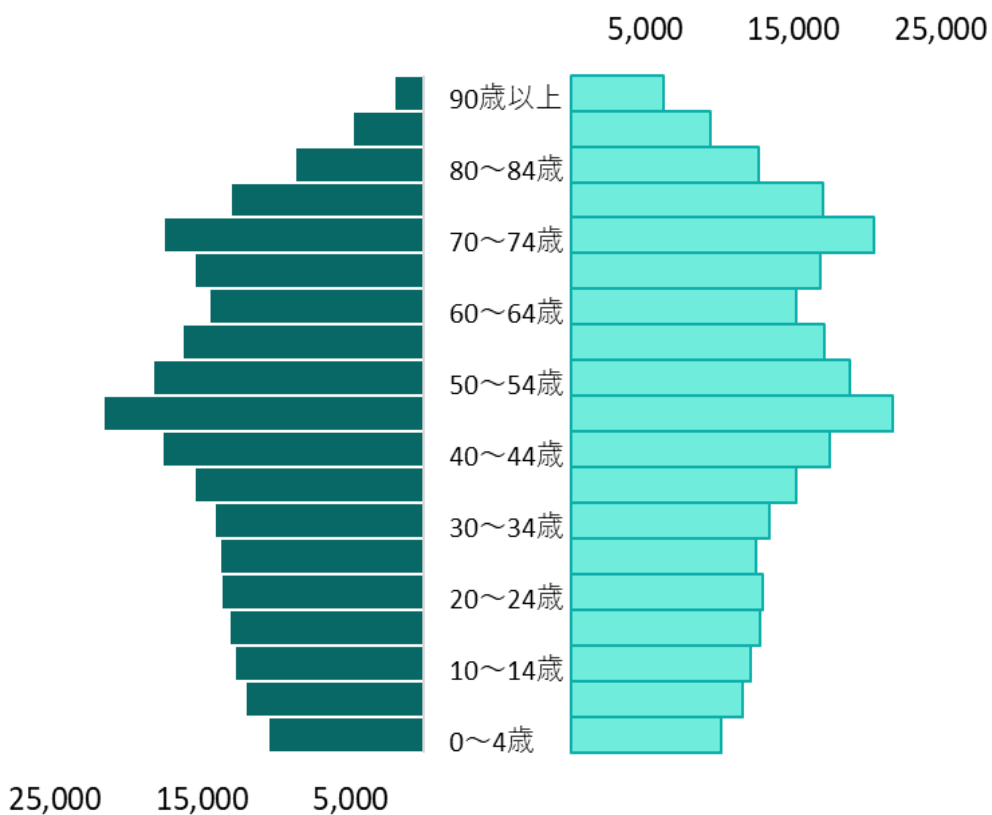
推計結果の概要

- ・2020年では団塊ジュニア世代（1971年～1974年生まれ）に当たる40代後半が年齢5歳階級別人口のピークであったが、2050年には70代後半がピークとなる。

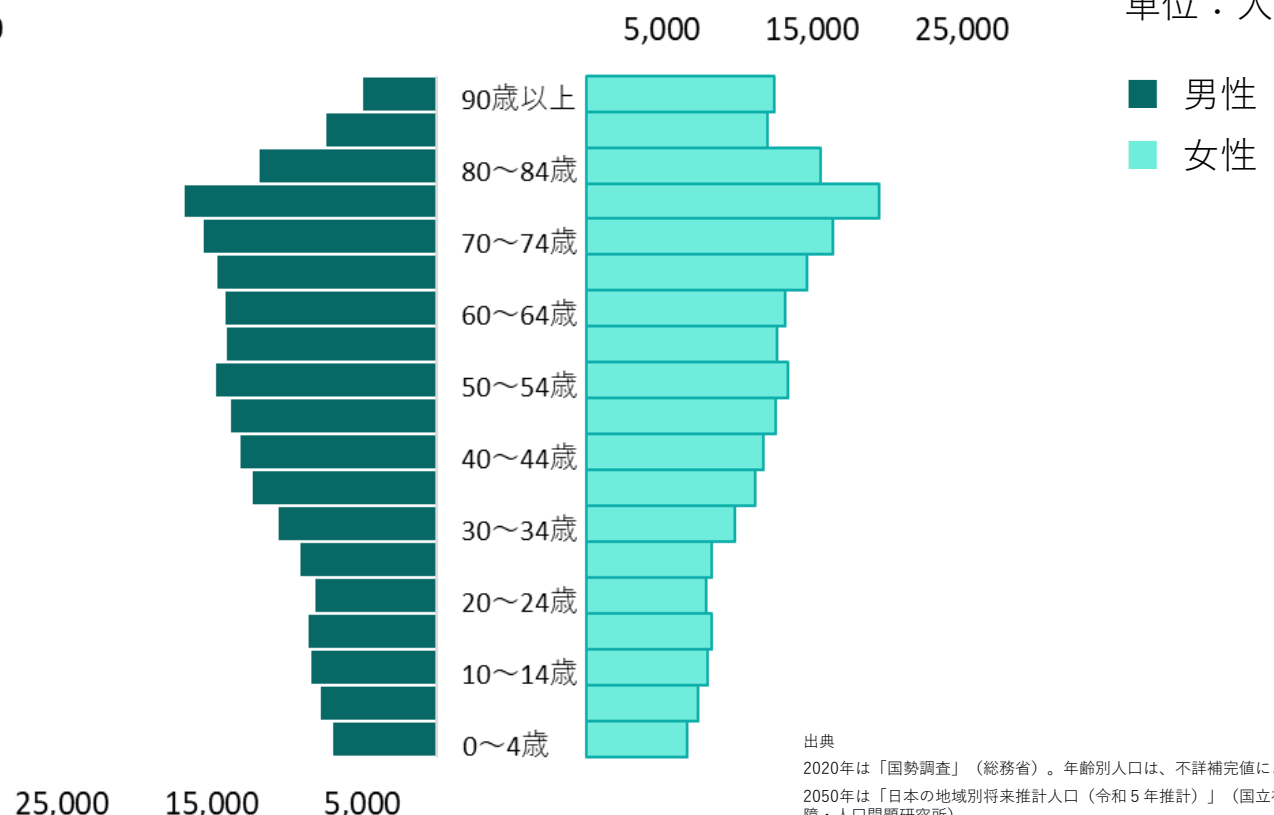
想定される変化・課題

- ・総人口のボリュームゾーンが現役世代から高齢者世代へと移行する一方で、ベビーブームのような人口急増現象の発生は予測されず、社会保障を支える現役世代の負担増が懸念される。

2020年（R2）



2050年（R32）



単位：人

■ 男性
■ 女性

出典
2020年は「国勢調査」（総務省）。年齢別人口は、不詳補完値による。
2050年は「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）」（国立社会保障・人口問題研究所）



3

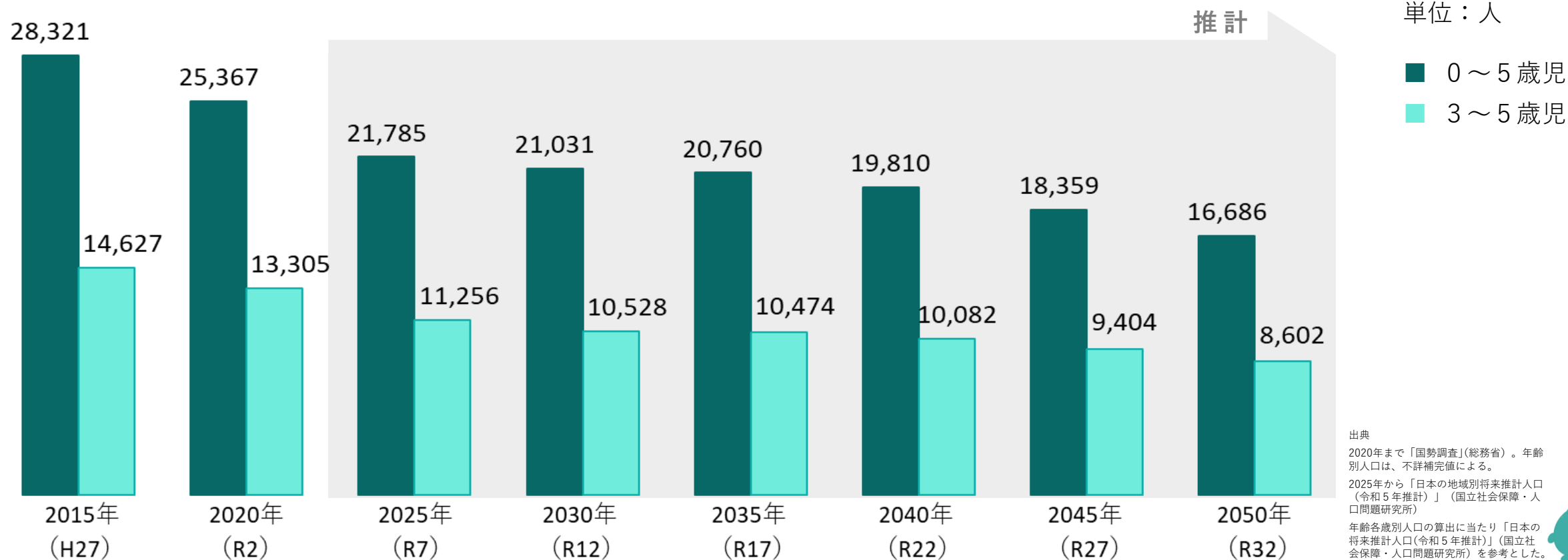
0～5歳児数、3～5歳児数

推計結果の概要

・0～5歳児、3～5歳児ともに減少し続け、2050年には2020年の約3分の2になると見込まれる。

想定される変化・課題

・出生数は減少傾向にあるものの、共働き世帯の増加等に伴い教育・保育ニーズの多様化が想定されるため、ニーズに対応した提供体制の確保が必要である。



4

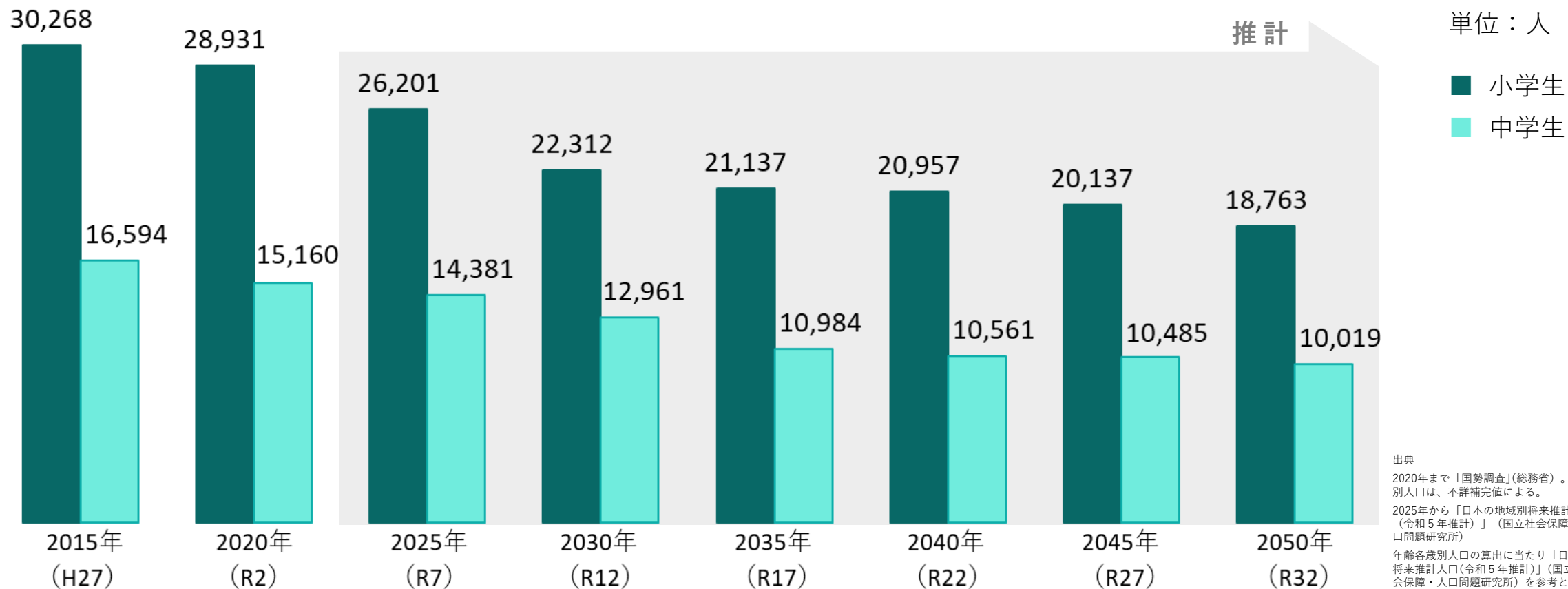
小学生数、中学生数

推計結果の概要

・小学生数、中学生数ともに減少し続け、2050年には2020年の約3分の2になると見込まれる。

想定される変化・課題

・少子化の進行等により、学校規模や配置による教育環境の不均衡や格差といった問題の発生が懸念される。



5

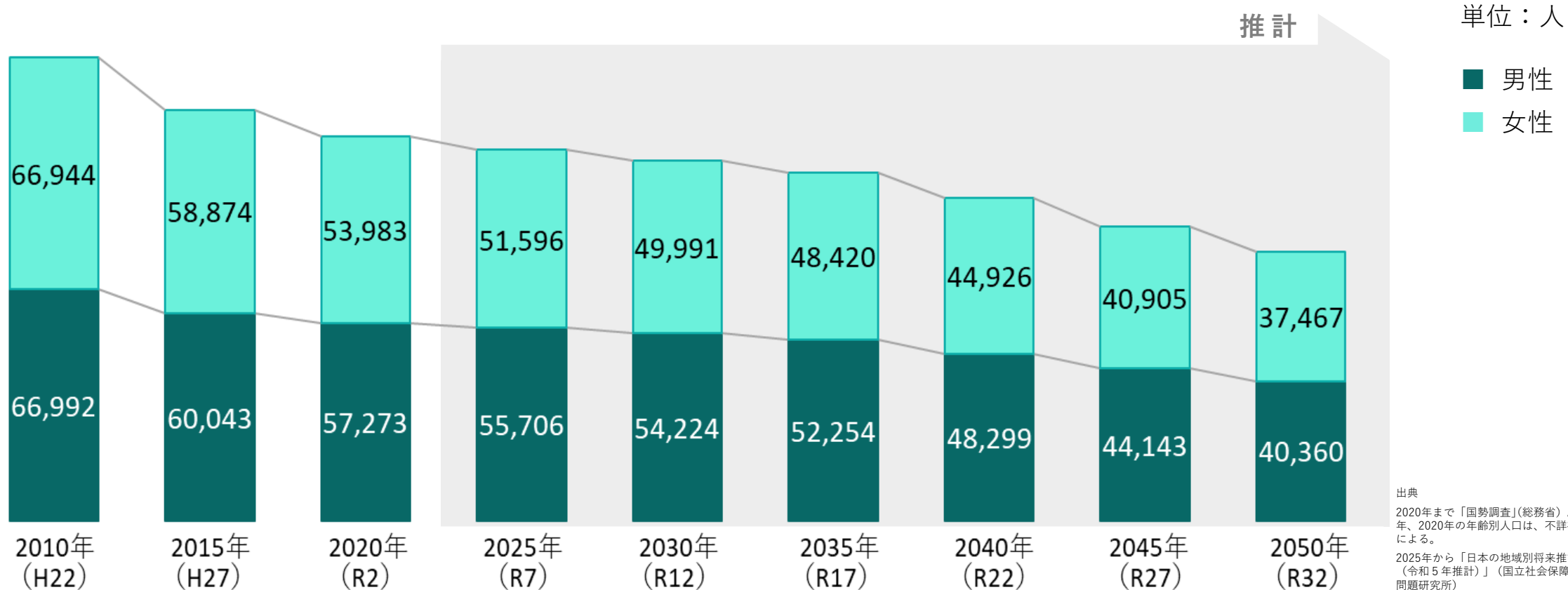
若年男女人口（20～39歳）

推計結果の概要

・男女ともに若年人口は減少し続け、2050年には2020年の約7割になると見込まれる。

想定される変化・課題

・若年労働力の不足に伴う地域経済の活力低下、市税収入の減少、少母化に伴う少子化の加速が懸念される。



6

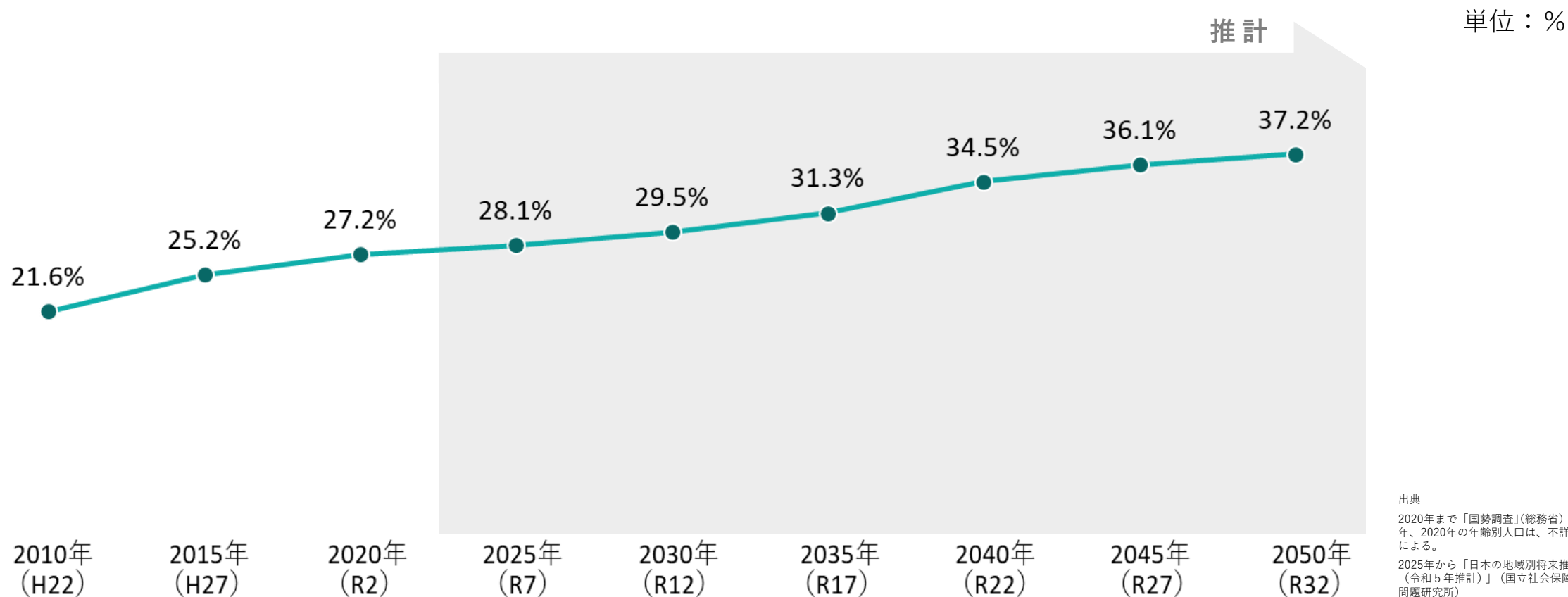
高齢化率（65歳以上の割合）

推計結果の概要

- ・ 高齢化率は2020年の約3割から増加し続け、2050年には約4割になり、社会保障費の増大が懸念される他、災害対策などの様々な行政サービスにおいて高齢者への対応が課題となる。

想定される変化・課題

- ・ 高齢化率の増加に伴い、総人口に占める生産年齢人口の割合が低下することで、医療や介護など社会保障に関する給付と負担のギャップが拡大するおそれがある。



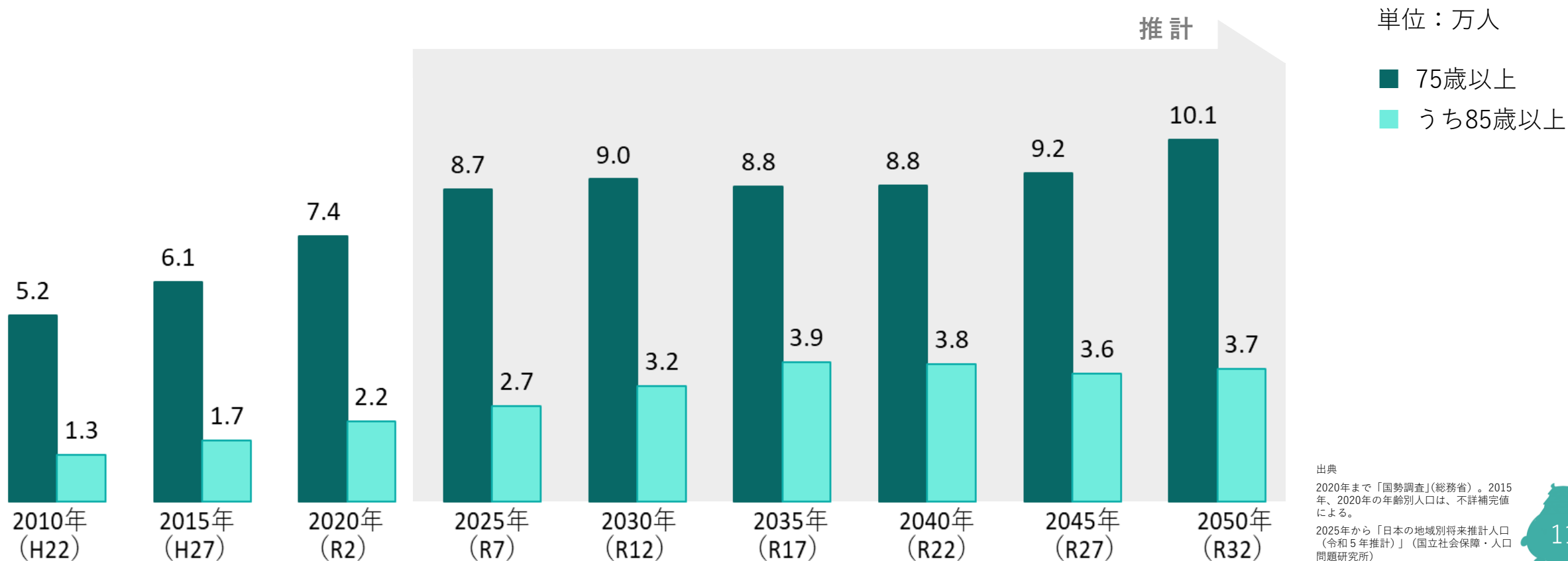
7 75歳以上人口、85歳以上人口

推計結果の概要

・75歳以上人口は2030年に一度ピークを迎え、その後は横ばいとなるが、2050年にはいわゆる団塊ジュニア世代が75歳以上となり、10万人を超え2030年を上回る。

想定される変化・課題

・高齢化率の増加に伴い、総人口に占める生産年齢人口の割合が低下することで、医療や介護など社会保障に関する給付と負担のギャップが拡大するおそれがある。

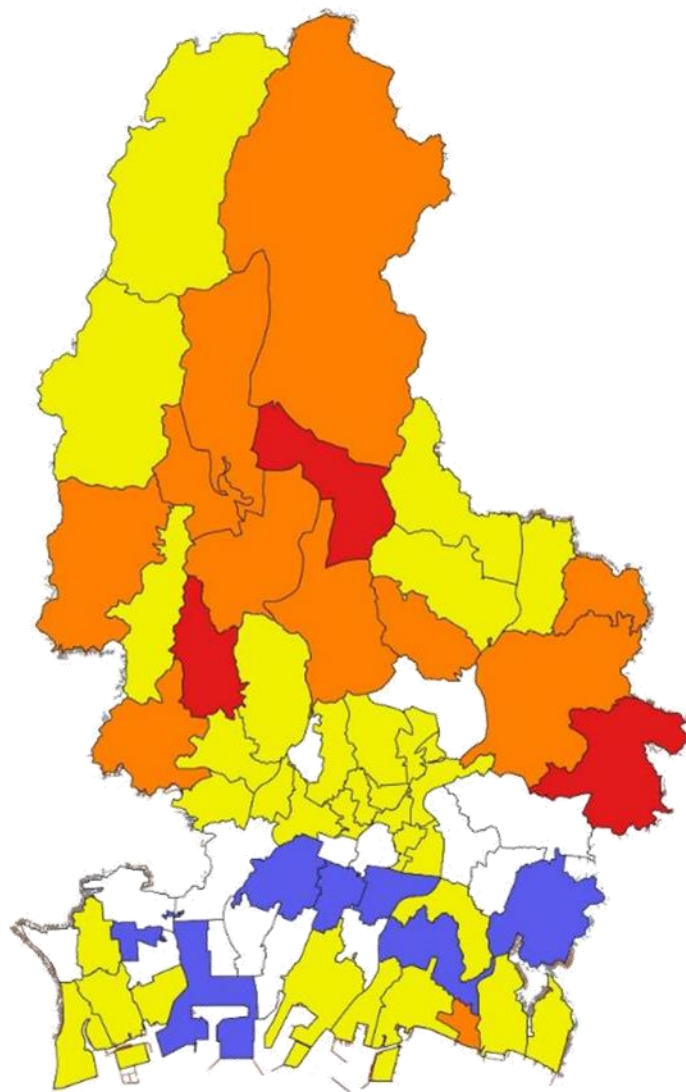


8.1

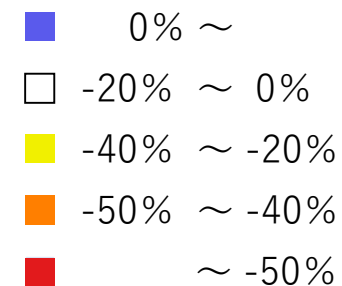
小学校区別人口（人口増減率 2020年 → 2050年）

推計結果の概要

- ・ 2020年から2050年の30年間で人口が増加するのは、手柄、荒川、城陽、四郷、別所、広畑第二、大津茂の7校区のみであり、山間部、島しょ部等周辺地域のいくつかの校区では、50%以上人口が減少すると見込まれる。

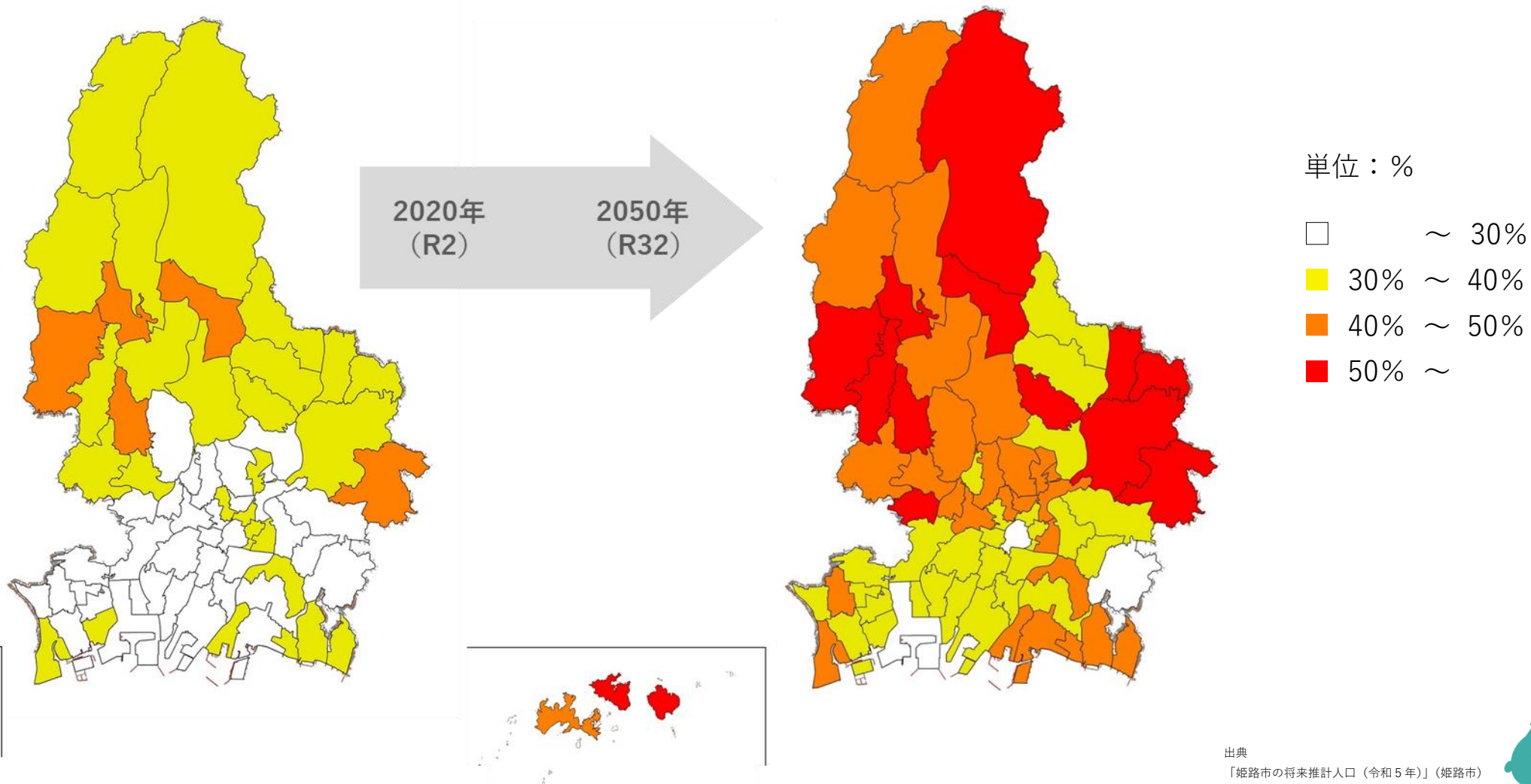


単位：％



推計結果の概要

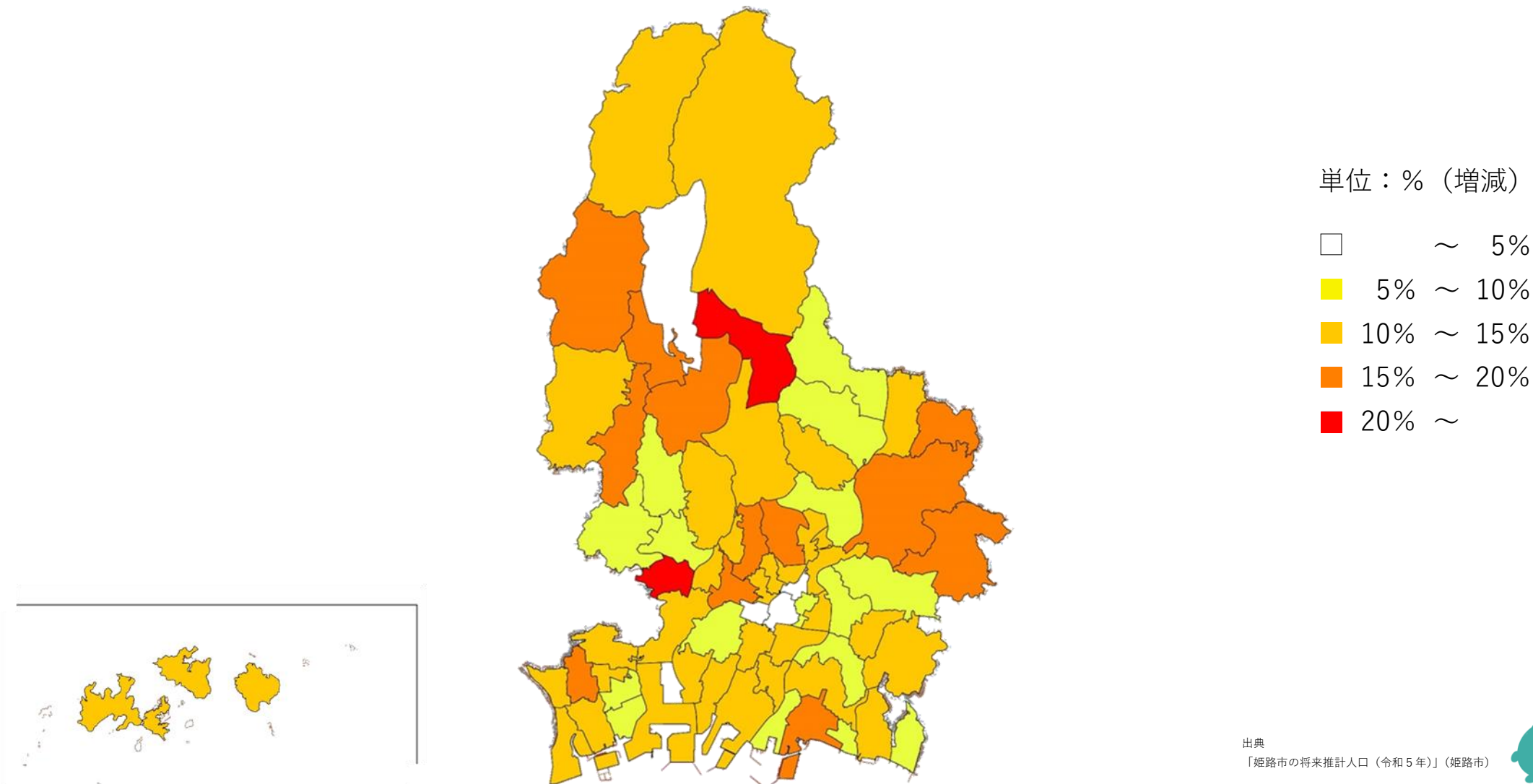
- ・ 高齢化率が50%を超える地域は、2020年では家島校区のみであったが、2050年には山間部等の周辺地域に拡大すると見込まれる。



8.3 小学校区別人口（高齢化率の増減 2020年 → 2050年）

推計結果の概要

- ・ 高齢化率が5～15%増加する地域が多いが、高齢化の進行状況には地域によるばらつきも大きく、30年間で20%以上高齢化率が増加すると見込まれる地域もある。



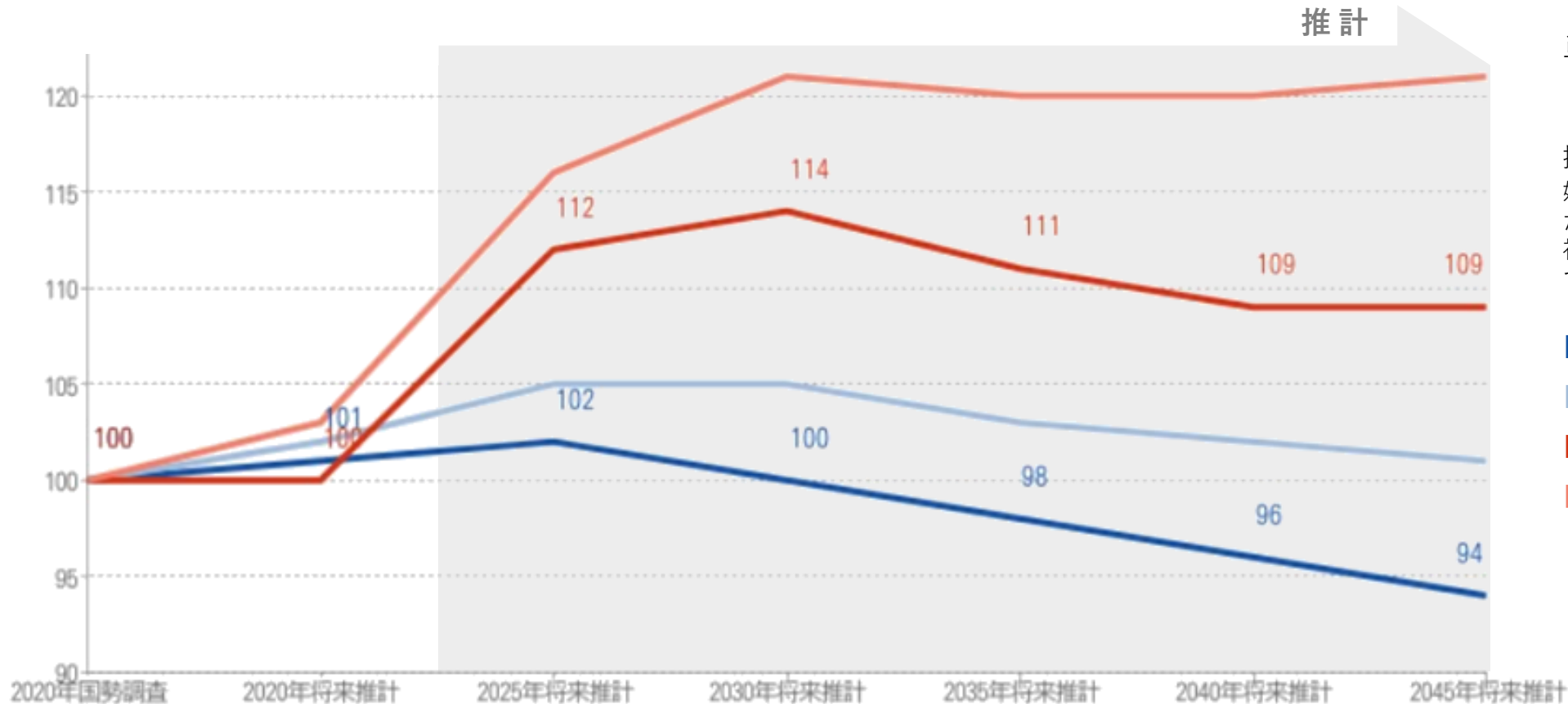
9 医療需要・介護需要（播磨姫路医療圏）

推計結果の概要

- ・医療需要は、2025年をピークに減少に転じる。
- ・介護需要は2025年にかけて急激に増加したのち、2030年をピークに、緩やかな減少に転じる。

想定される変化・課題

- ・医療需要や介護需要が増加するため、医療・介護人材の需要と供給のギャップが拡大するおそれがある。



単位：2020年の需要を100とした時の値

播磨姫路医療圏
 姫路市、相生市、赤穂市、宍粟市、たつの市、市川町、福崎町、神河町、太子町、上郡町、佐用町で構成

- 医療（播磨姫路医療圏）
- 医療（全国平均）
- 介護（播磨姫路医療圏）
- 介護（全国平均）

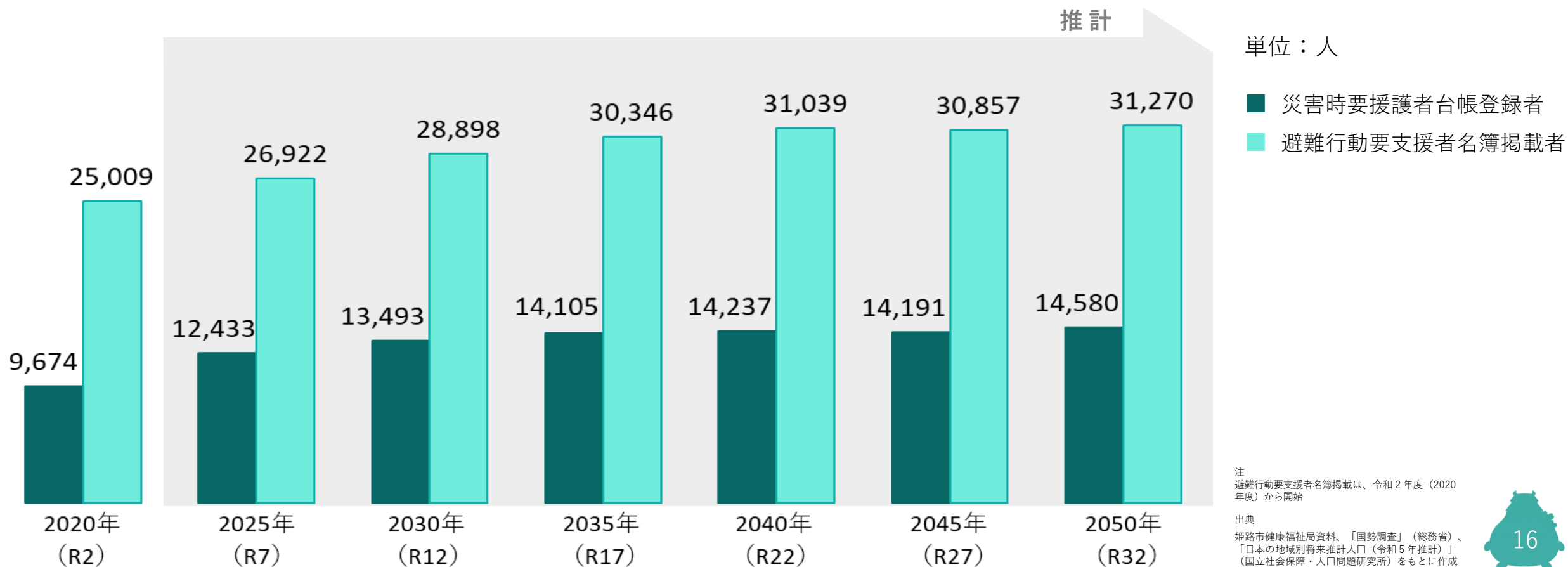
10 災害時要援護者数、避難行動要支援者数

推計結果の概要

・高齢者の増加により、災害時要援護者、避難行動要支援者ともに2050年にかけて増加する。

想定される変化・課題

・地域での日頃からの見守りや災害時の避難支援、安否確認を担う支援者の不足が想定される。



11

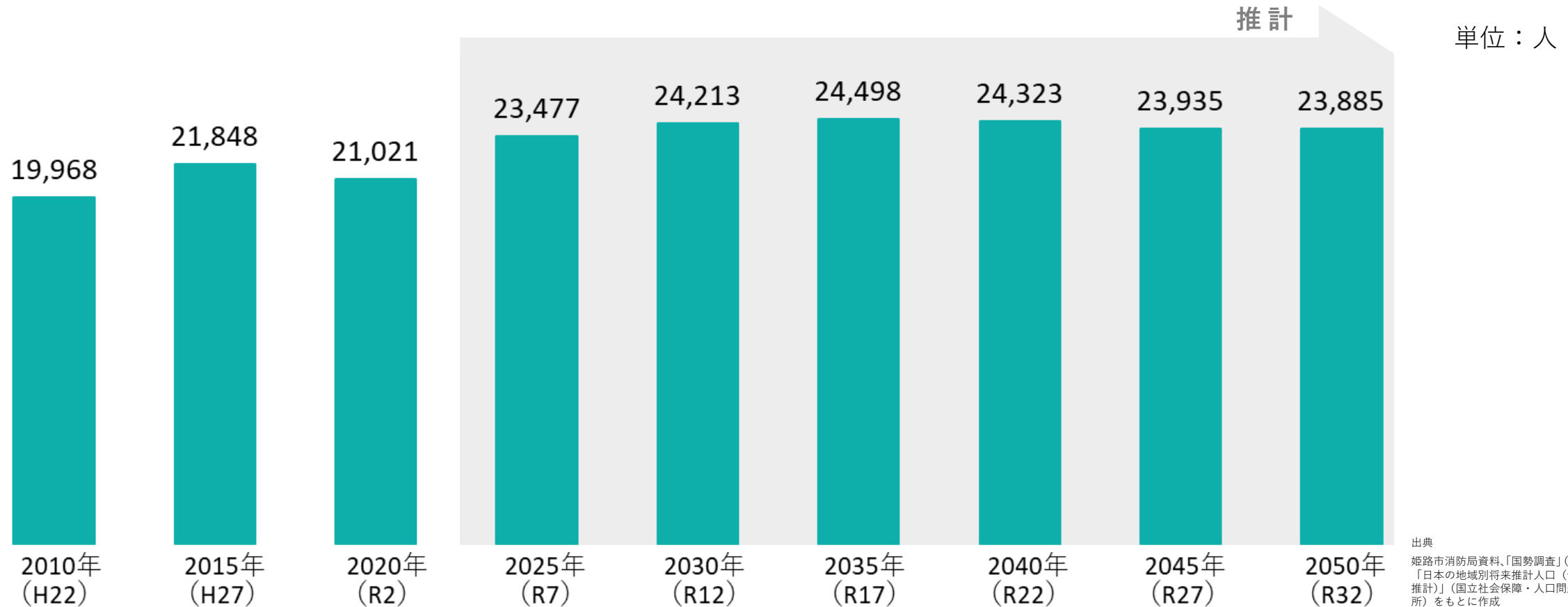
救急搬送人員

推計結果の概要

・高齢者の増加に伴い、救急搬送人員は2035年にかけて増加し続ける。

想定される変化・課題

・高齢化による救急需要の高まりにより、救急車の稼働率が上昇し、現場到着時間の延伸が懸念される。
・地域全体の救急医療体制の充実や、救急車適正利用の普及啓発の重要性が高まる。

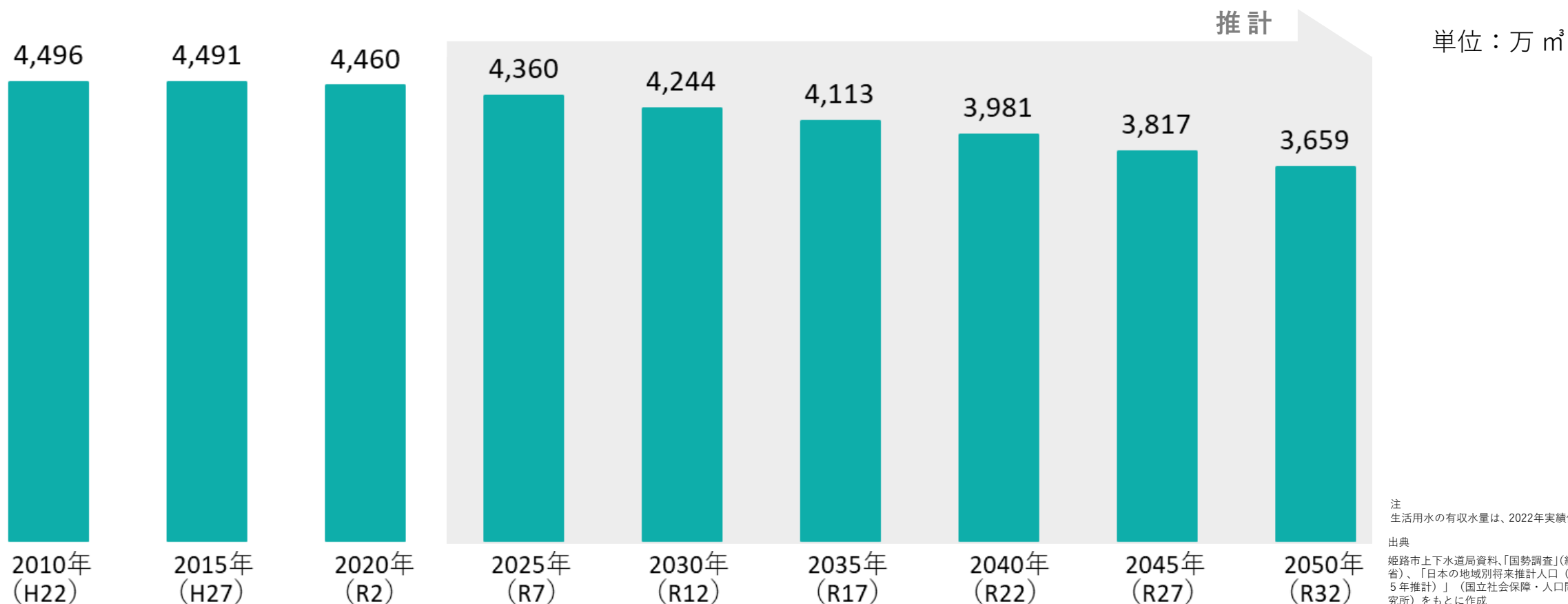


推計結果の概要

- ・人口減少や節水機器の普及、節水意識の高まりなどにより水需要は減少し、生活用水の有収水量（水道料金徴収の対象となる使用水量）は、2050年にかけて減少する。

想定される変化・課題

- ・水道料金収入が減少し、水道事業運営に係る資金の確保が困難になる。
- ・水需要に対して浄水場等の施設規模や機械設備の性能が過大となり、事業効率の低下が懸念される。

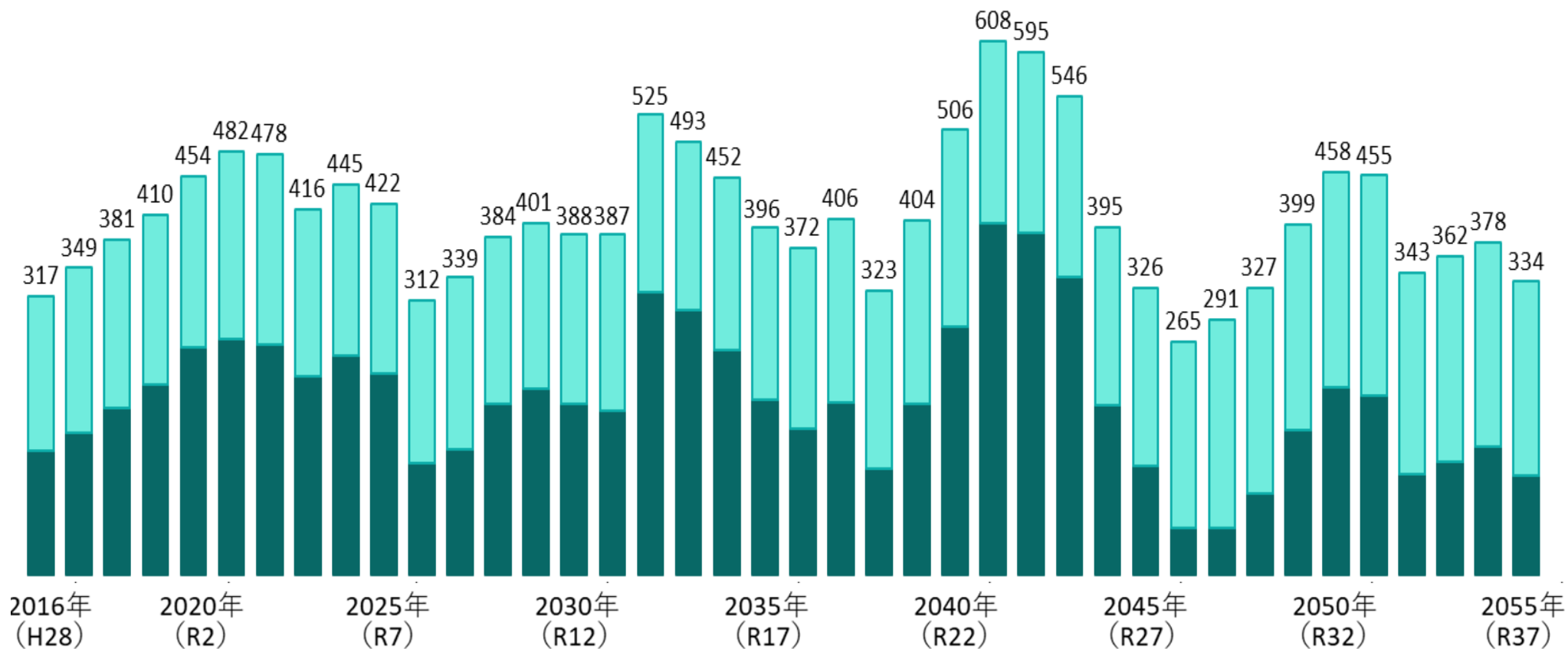


推計結果の概要

・姫路市保有の全公共施設等について、現状の規模で改修・更新等を実施した場合、毎年平均約400億円超の経費がかかる。

想定される変化・課題

- ・人口減少に伴う利用需要の変化や改修・更新経費の将来推計によると、全公共施設を現状の水準のまま維持することは困難である。
- ・長期的な視点を持って施設のあり方を根本的に見直し、過大な施設や不要な施設を整理することが必要である。



単位：億円

- 公共建築物
- 社会基盤施設

公共建築物

庁舎や学校、公営住宅など姫路市が所有する建築物（いわゆるハコモノ施設）

社会基盤施設

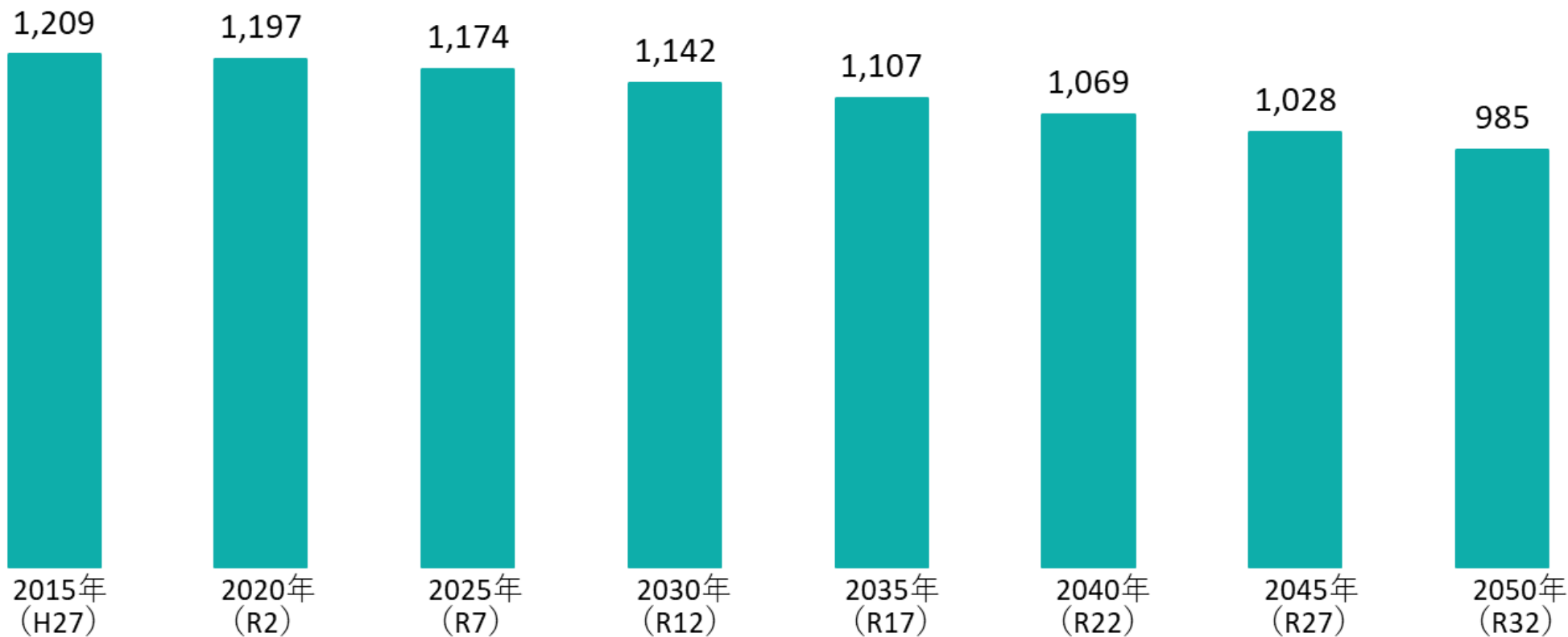
道路・橋りょう等の土木構造物や公園、上下水道施設等（いわゆるインフラ施設）

推計結果の概要

- 交通発生量は人口減少に伴い2050年にかけて減少する。

想定される変化・課題

- 人口減少に伴い交通発生量も縮小することから、公共交通である鉄道や路線バスの減便など、運行体制の見直しが行われる可能性がある。



単位：千トリップ/日

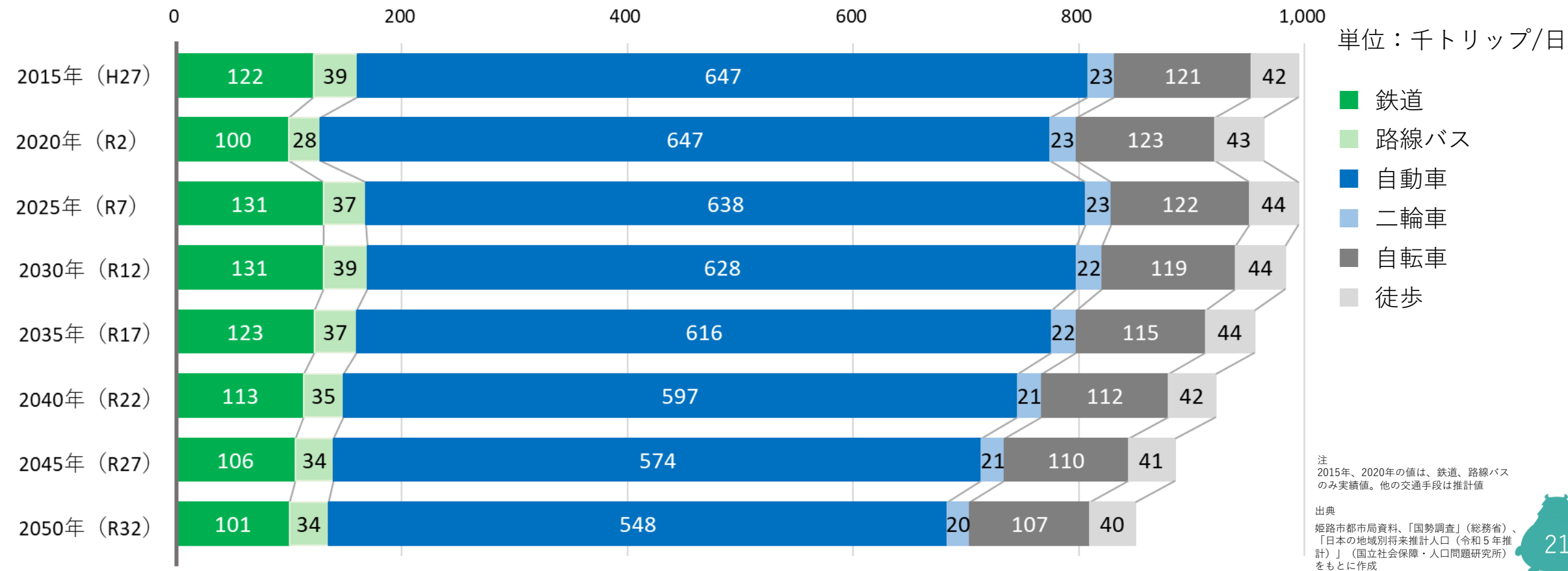
トリップ
人がある目的（出勤、買い物など）を持って、ある地点からある地点まで移動すること

注
「第5回近畿圏パーソントリップ調査結果」（京阪神都市圏交通計画協議会）からの推計

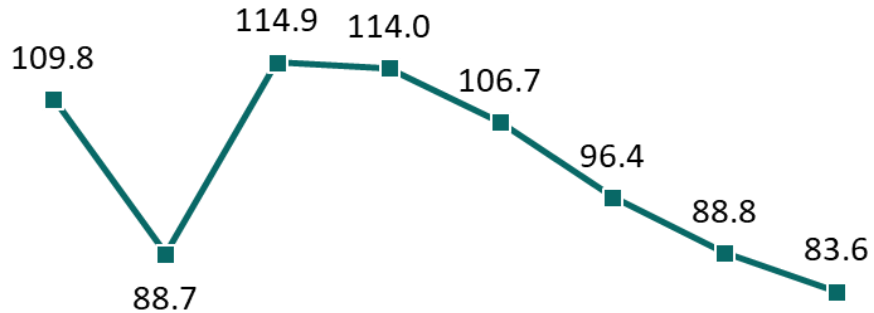
出典
姫路市都市局資料、「国勢調査」（総務省）、「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）」（国立社会保障・人口問題研究所）をもとに作成

15.1 年齢別・各交通手段の交通発生量

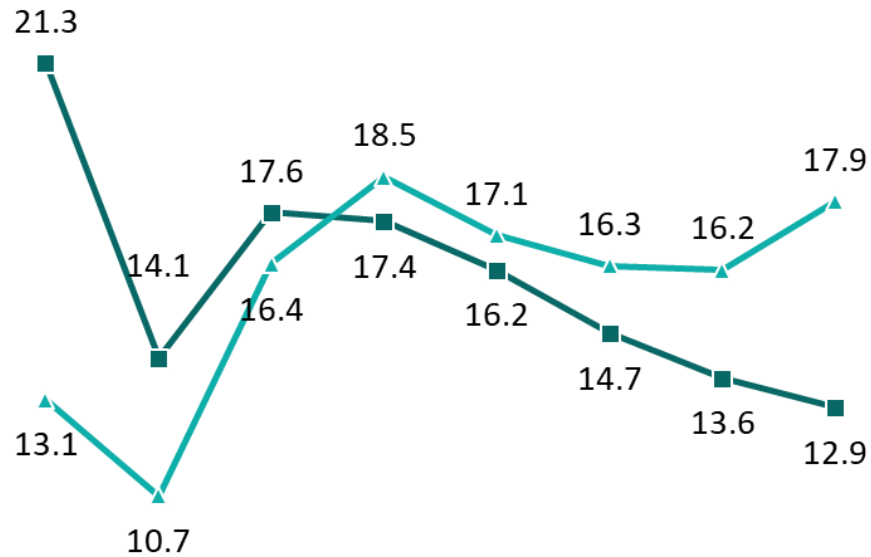
<p>推計結果の概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全体の交通発生量は人口の減少に伴い減少するが、75歳以上の交通発生量は全ての交通手段で増加する。
<p>想定される変化・課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の交通ニーズが高まる一方で、人口減少に伴う輸送需要の縮小から、公共交通の運行体制の見直しが行われる可能性がある。 ・高齢者が安全・安心に利用できる交通手段の確保が必要である。



鉄道



路線バス



単位：千トリップ/日

- 16~64歳
- 65~74歳
- ▲ 75歳以上



2015年 (H27) 2020年 (R2) 2025年 (R7) 2030年 (R12) 2035年 (R17) 2040年 (R22) 2045年 (R27) 2050年 (R32)

2015年 (H27) 2020年 (R2) 2025年 (R7) 2030年 (R12) 2035年 (R17) 2040年 (R22) 2045年 (R27) 2050年 (R32)

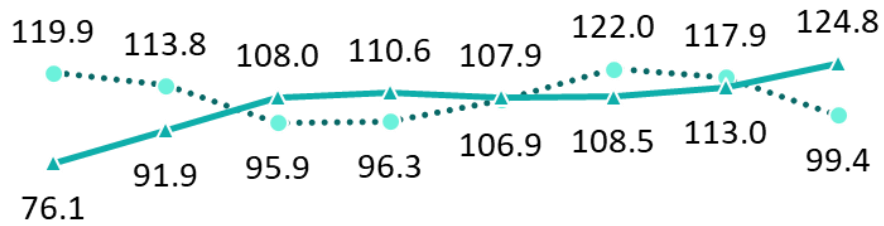
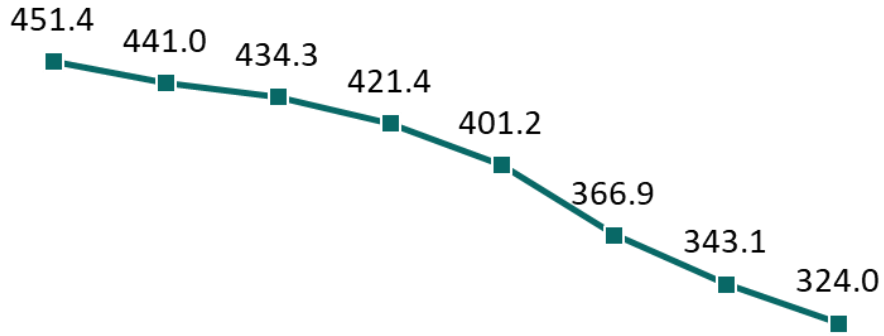
注
2015年、2020年の値は実績値

出典
姫路市都市局資料、「国勢調査」(総務省)、「日本の地域別将来推計人口(令和5年推計)」(国立社会保障・人口問題研究所)をもとに作成

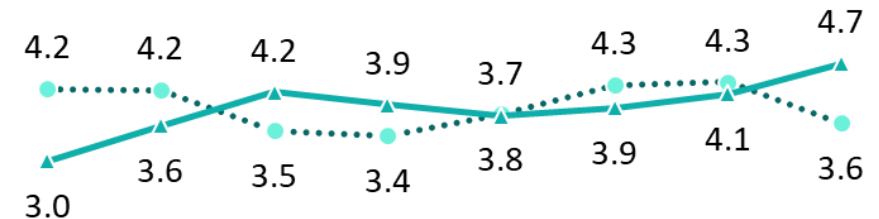
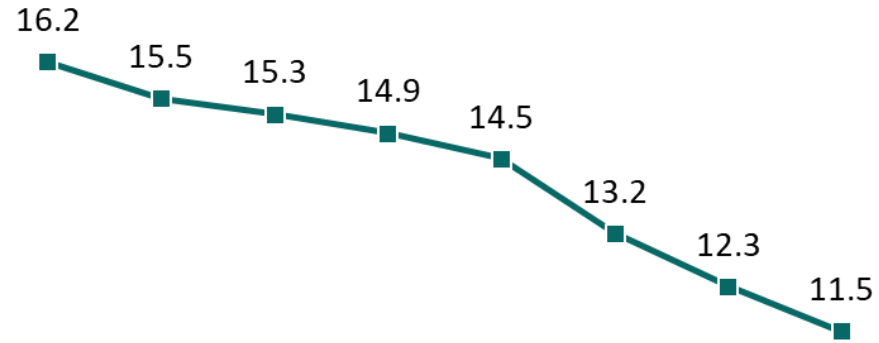
15.3

年齢別・各交通手段の交通発生量（自動車・二輪車）

自動車



二輪車



単位：千トリップ/日

- 16~64歳
- 65~74歳
- ▲ 75歳以上

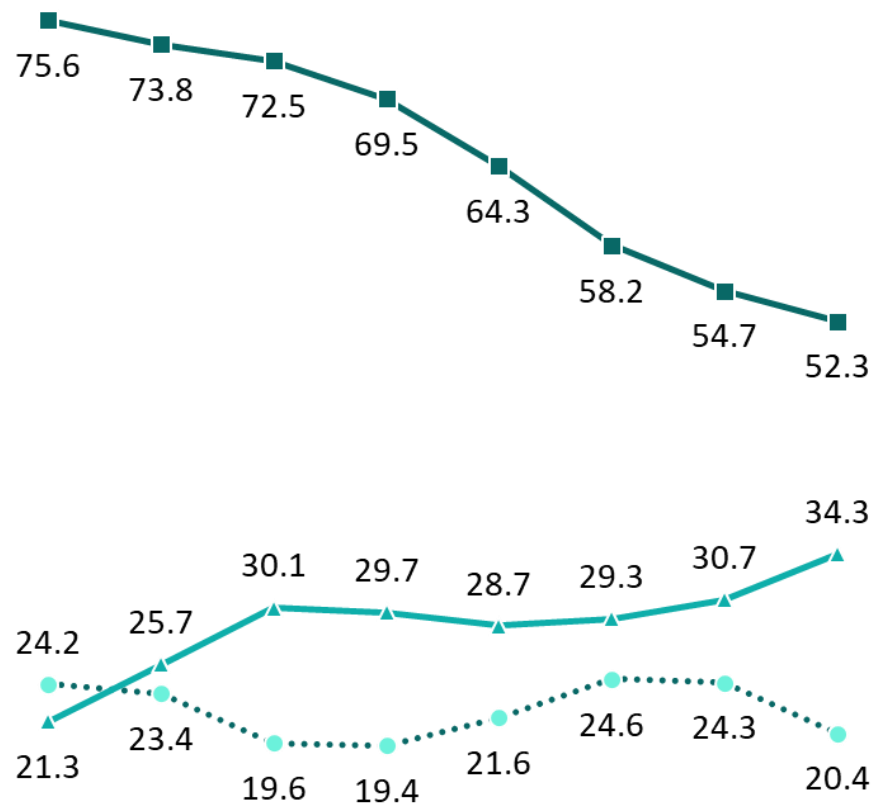
2015年 (H27) 2020年 (R2) 2025年 (R7) 2030年 (R12) 2035年 (R17) 2040年 (R22) 2045年 (R27) 2050年 (R32)

2015年 (H27) 2020年 (R2) 2025年 (R7) 2030年 (R12) 2035年 (R17) 2040年 (R22) 2045年 (R27) 2050年 (R32)

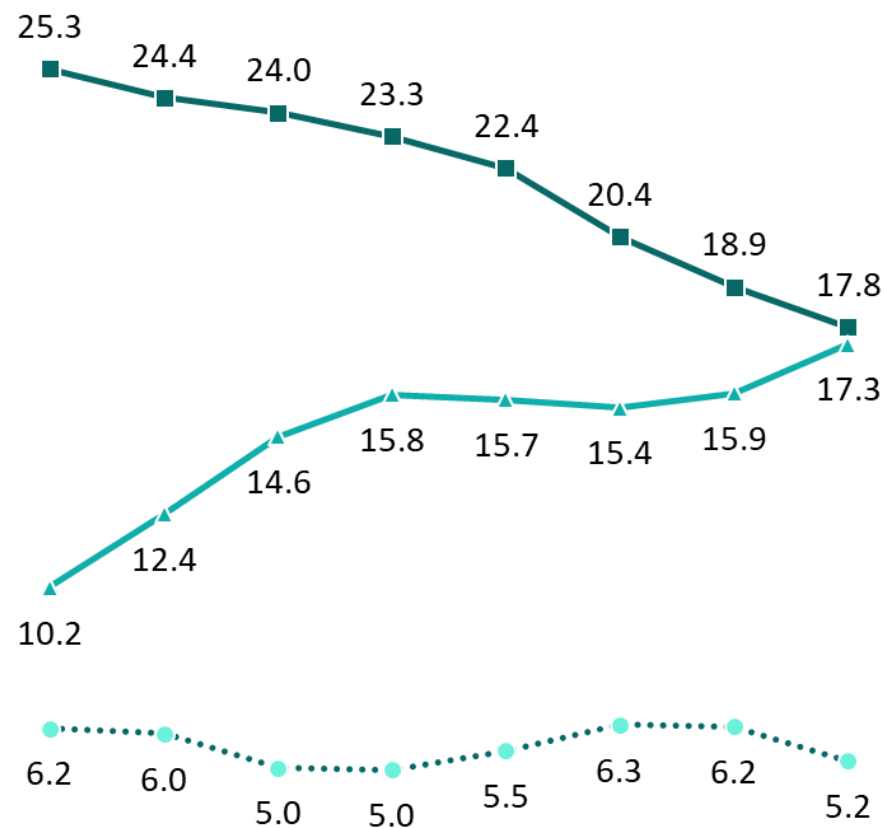
注
2015年、2020年の値は推計値

出典
姫路市都市局資料、「国勢調査」(総務省)、「日本の地域別将来推計人口(令和5年推計)」(国立社会保障・人口問題研究所)をもとに作成

自転車



徒歩



単位：千トリップ/日

- 16～64歳
- 65～74歳
- ▲ 75歳以上

2015年 (H27) 2020年 (R2) 2025年 (R7) 2030年 (R12) 2035年 (R17) 2040年 (R22) 2045年 (R27) 2050年 (R32)

2015年 (H27) 2020年 (R2) 2025年 (R7) 2030年 (R12) 2035年 (R17) 2040年 (R22) 2045年 (R27) 2050年 (R32)

注
2015年、2020年の値は推計値

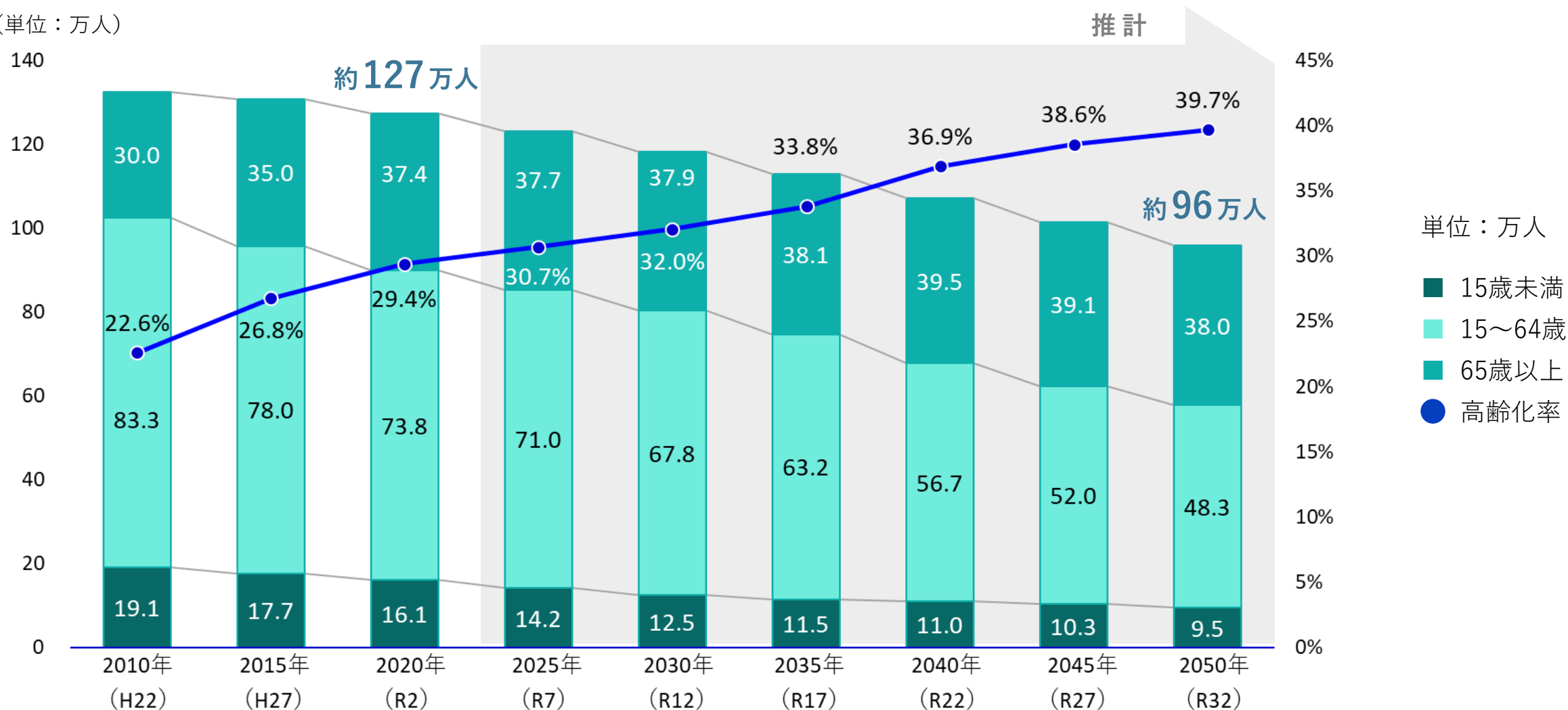
出典
姫路市都市局資料、「国勢調査」(総務省)、「日本の地域別将来推計人口(令和5年推計)」(国立社会保障・人口問題研究所)をもとに作成

播磨圏域連携中枢都市圏（8市8町） 将来推計人口

市町	総人口（人）									2010年の総人口を100としたときの指数								
	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年
姫路市	536,270	535,664	530,495	519,967	506,147	490,585	473,452	455,255	436,360	100.0	99.9	98.9	97.0	94.4	91.5	88.3	84.9	81.4
相生市	31,158	30,129	28,355	25,821	24,047	22,239	20,487	18,863	17,420	100.0	96.7	91.0	82.9	77.2	71.4	65.8	60.5	55.9
加古川市	266,937	267,435	260,878	253,960	245,287	235,190	224,196	212,789	201,317	100.0	100.2	97.7	95.1	91.9	88.1	84.0	79.7	75.4
赤穂市	50,523	48,567	45,892	42,637	39,897	37,101	34,287	31,509	28,856	100.0	96.1	90.8	84.4	79.0	73.4	67.9	62.4	57.1
高砂市	93,901	91,030	87,722	84,290	80,306	75,851	71,174	66,453	61,902	100.0	96.9	93.4	89.8	85.5	80.8	75.8	70.8	65.9
加西市	47,993	44,313	42,700	40,210	37,701	35,072	32,308	29,521	26,829	100.0	92.3	89.0	83.8	78.6	73.1	67.3	61.5	55.9
宍粟市	40,938	37,773	34,819	31,628	28,763	25,999	23,317	20,720	18,235	100.0	92.3	85.1	77.3	70.3	63.5	57.0	50.6	44.5
たつの市	80,518	77,419	74,316	70,414	66,902	62,988	58,871	54,744	50,721	100.0	96.2	92.3	87.5	83.1	78.2	73.1	68.0	63.0
稲美町	31,026	31,020	30,268	29,284	27,936	26,371	24,700	23,026	21,446	100.0	100.0	97.6	94.4	90.0	85.0	79.6	74.2	69.1
播磨町	33,183	33,739	33,604	33,294	32,353	31,196	29,952	28,699	27,485	100.0	101.7	101.3	100.3	97.5	94.0	90.3	86.5	82.8
市川町	13,288	12,300	11,231	10,267	9,333	8,382	7,449	6,558	5,719	100.0	92.6	84.5	77.3	70.2	63.1	56.1	49.4	43.0
福崎町	19,830	19,738	19,377	18,877	18,262	17,529	16,683	15,826	14,977	100.0	99.5	97.7	95.2	92.1	88.4	84.1	79.8	75.5
神河町	12,289	11,452	10,616	9,576	8,760	7,964	7,162	6,392	5,657	100.0	93.2	86.4	77.9	71.3	64.8	58.3	52.0	46.0
太子町	33,438	33,690	33,477	32,753	31,699	30,540	29,332	28,098	26,806	100.0	100.8	100.1	98.0	94.8	91.3	87.7	84.0	80.2
上郡町	16,636	15,224	13,879	12,603	11,319	10,061	8,846	7,684	6,622	100.0	91.5	83.4	75.8	68.0	60.5	53.2	46.2	39.8
佐用町	19,265	17,510	15,863	14,015	12,491	11,077	9,746	8,476	7,284	100.0	90.9	82.3	72.7	64.8	57.5	50.6	44.0	37.8
8市8町	1,327,193	1,307,003	1,273,492	1,229,596	1,181,203	1,128,145	1,071,962	1,014,613	957,636	100.0	98.5	96.0	92.6	89.0	85.0	80.8	76.4	72.2

出典 2020年まで「国勢調査」（総務省）。2015年、2020年の年齢別人口は、不詳補完値による。
2025年から「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）」（国立社会保障・人口問題研究所）

(単位：万人)



出典 2020年まで「国勢調査」（総務省）。2015年、2020年の年齢別人口は、不詳補完値による。
2025年から「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）」（国立社会保障・人口問題研究所）